

中学校第3学年 保健体育科 単元名「文化としてのスポーツの意義」

1 本単元で人権教育を進めるにあたって

本単元では、スポーツが生活や人生を豊かにするかけがえのない文化であり、現代生活のなかで重要な役割を果たしていることを理解させ、生涯にわたって健康で文化的な生活を営む態度を育成することをねらいとしている。

この学習では、スポーツが世界平和や国際親善・地域振興などに貢献していることや、民族や国、人種や性、障がいの違いなどを超えて人々を結び付けていることなどから、文化としてのスポーツの意義を考えさせる。また、そのことを通して、「権利」や「他者理解」などの人権問題を解決する上で重要な諸概念の理解にもつなげていきたい。

様々な大会や自分たちの生活の中にあるスポーツなどについて調べたり、自分の生活とスポーツを関連付けて考えさせたりする活動を通して、主体的な学習を促し理解を深めさせたい。

2 単元の目標

現代生活におけるスポーツが文化的意義をもつことを理解し、国際的なスポーツ大会が果たす役割や、文化としてのスポーツが様々な人々を結び付ける働きがあることを理解する。

3 人権教育を通じて育てたい資質・能力

- 人はみな健康で文化的な生活を送る権利を有することを理解する。（知識的側面）
- 相互理解が差別や偏見をなくすことを理解する。（知識的側面）
- スポーツが世界平和や国際親善に貢献していることを知る。（知識的側面）

4 指導のポイント

(1) 知的理解を図る上で大切にしたいポイント

- 第1学年で学習したスポーツの多様性（「する」・「見る」・「支える」スポーツ）を導入に学習を展開する。
- 共通のルールでスポーツマンシップに則り勝敗を競うところにスポーツの価値があり、そこには公正・公平な態度やフェアプレイの精神が伴うことを知らせる。
- スポーツ選手や各種スポーツ団体が取り組んでいる国際親善活動について調べ学習を取り入れ、スポーツの文化的側面に気付かせる。
- 生徒の興味・関心を引き出すために、VTRやIT機器を活用するなど、導入方法を工夫する。
- スポーツに関わることで自己表現や他者理解につながり、相互理解の機会となることに気付かせる。

(2) 人権が尊重される授業づくりの視点

- ① 自己存在感
班活動を中心に学習活動を進め、話し合い活動の充実と学習規律の定着を図り、互いの意見を尊重する習慣を付けておく。
- ② 共感的人間関係
自由に発言できる時間帯を設定するとともに、互いの思いを共有する活動を行う。
- ③ 自己選択・決定
自分の考えや意見をまとめたり、課題を設定したりするためのワークシートの工夫を行う。

5 学習の流れ

(1) 指導計画（3時間取り扱い）

学習活動	人権尊重の視点を踏まえた指導上の留意点等
<p>1 現代社会におけるスポーツの文化的意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツが健やかな心身の育成や自己開発の機会、人々との交流の場を提供することを理解する。 ○国内外のスポーツ振興にかかわる諸計画について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健やかな心身は、健康で文化的な生活を営むことにつながることを理解させる。 ○既習の「スポーツをする・見る・支える」という、それぞれの立場から、スポーツに関わることが相互理解につながることを知らせる。 ○スポーツ振興が生活改善につながることを知らせる。
<p>2 国際的なスポーツ大会が果たす文化的な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツの持つ教育的意義や倫理的価値、国際大会の果たす役割について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際大会が、フェアプレイやチームワークなどスポーツの価値を広める機会になることを知らせる。 ○これまでに国際大会が世界平和や国際親善に貢献してきたことを知らせる。
<p>3 人々を結び付けるスポーツの文化的なはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツによる人々の結び付きが、様々な違いを超えて行われていることと、その広がりについて理解する。 (本時) 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツが様々な違いを超えた人々の交流につながり、自他の人権を尊重することを理解させる。 ○ルールや用具を工夫することで、スポーツは楽しみ方やかわり方が多様になることを理解させる。

(2) 人権尊重の意識と実践力を養う学習活動例 (3 / 3 時間目)

目標

◇スポーツには民族や国、人種や性、障がいの有無、年齢や地域、風土といった違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを理解する。

人権教育で育てたい資質・能力

◆スポーツによる人々の結び付きが、差別や偏見をなくし人権を守る価値観につながることを知る。

主な学習活動	○指導上の工夫・留意点 評価◇◆	備考
1 前時の学習を振り返る	○オリンピック等の国際大会の文化的役割について理解を深めさせる。	
2 本時のめあてを知る。		
スポーツによる人々の交流にはどんな意義があるか考えよう		
3 スポーツを通してどのような人たちと関わっているか考える。 (1) 自分たちの経験から、場面や相手など自由に出し合う。 (2) それぞれの役割について話し合う。 (3) 教科書で確認をする。	○部活動や学校行事等を思い出しながら、どのようなかわりがあったのかを記入するよう助言する。 ○全体で確認しながら、それぞれの役割に気付かせる。 ○教科書をもとに、スポーツが人々を結び付けていることに気付かせる。	ワークシート ①
4 ルールを工夫したスポーツについて調べ、発表する。 ・道具について ・ルールについて	○シッティングバレー・ゴールボールについてインターネット等で調べさせる。 ○障がいの有無にかかわらずスポーツを楽しめるよう、道具やルールが工夫されていることに気付かせる。 ◇スポーツがさまざまな違いを超えて人々を結び付けていることを理解している。	ワークシート ②
5 本時のまとめをする。	○学習したことをもとに、様々な違いを超えてみんなが一緒にできるスポーツ等についてまとめさせる。 ◆道具やルールを工夫したスポーツによる人々の交流が、差別や偏見をなくし人権を守る価値観につながることを理解している。	ワークシート ③

6 資料

第3学年保健体育科学習シート 3年 組 号 ()
《人々を結びつけるスポーツの文化的なはたらき》

【めあて】 ()

① 自分がスポーツを通して関わっているのは、どんな人たちだろう。

○どんな人

○どんなとき

※違いをこえたスポーツによる人々の結びつき

○ () をこえる・・・親子大会など

○ () をこえる・・・ミックスダブルスなど

○ () をこえる・・・オリンピックや国際大会など

○ () をこえる・・・パラリンピックなど

② ルールや用具を工夫して行うスポーツについて調べてみよう。

種目：《 () 》

--

《気付いたことや考えたこと》

③ 今日の学習を通して、学んだことや気付いたことをまとめましょう。

《参考資料》

以下の URL より競技の概要や規則、動画などを見ることができます。

※日本ゴールボール協会オフィシャルサイトより

<http://www.jgba.jp/>

※日本シッティングバレーボール協会ホームページより

<http://www.jsva.info>

【解答例】

※違いをこえたスポーツによる人々の結びつき

- （ 年齢（世代） ）をこえる・・・親子大会など
- （ 性 ）をこえる・・・ミックスタブルスなど
- （ 人種、民族、国 ）をこえる・・・オリンピックや国際大会など
- （ 障がいの有無 ）をこえる・・・パラリンピックなど